

ぎょさい推進全国会議を東京で開催！

～ 進む地球温暖化や新経営安対策について講演 ～



8月23日、東京港区虎ノ門パストラルにおいて、「平成19年度ぎょさい推進全国会議」が開催し、全国から漁業者・漁協役職員をはじめ、水産庁や中央水産団体の皆様など総勢120名のご参加を頂きました。

はじめに、主催者を代表して漁済連の川端会長が開会挨拶、次いで来賓の白須水産庁長官(重増殖推進部長代読)、服部JF全漁連会長、吉岡JF共水連会長から力強い挨拶を頂きました。

会議は第1部で漁業共済優績者の皆さまへの水産庁長官賞(漁協5団体・漁業者24名)の表彰、第2部では「ぎょさい」加入・高度利用の必要性の理解を深めて頂くために講演会を行い、第3部では山内漁船保険中央会会長の乾杯音頭のあと参加者の懇親を深めて頂き、団野副会長(漁済連)の挨拶で閉会しました。

第2部の講演会では、橋爪常務(漁済連)の「ぎょさい」加入に関する基調報告のあと、気象庁の地球温暖化対策調整官の里田弘志氏により「地球温暖化について」、水産庁漁業保険管理官の長谷成人氏により「新しい漁業経営安定対策について」講演頂きました。

この中で、里田調整官は地球温暖化の傾向は疑う余地のない事実であり、特に世界レベルで見れば、近年大型台風の増加傾向が認められており、猛暑日や大雨日数が増加していること。また、日本近海の海水温は最近100年で1℃以上の上昇(世界平均の2倍)をみせていること。これらに伴った生態系へのダメージが危惧されること等を、近年特にわれわれが体感的に気づいていることについて、具体的な観測データを用いて分かりやすく説明して下さいました。

特に、これから台風シーズンを迎えることとなりますが、今年は既に台風4号(7月中旬)、台風5号(8月上旬)及び台風9号(9月上旬)と大型台風3つが日本列島に上陸し、大きな被害をもたらしました。漁業のみならず財産・生命さえも脅かす災害への備え(危機管理)を怠ってはならないと痛感すると共に、改めて「ぎょさい」加入の重要性を認識する講演会でした。

(平成19年9月14日 運動情報版より)